

サロンのあべの

Vol. 134

障害者とスポーツ アーチエリーを中心として

サロン・あべの7月の出会い

梅雨明けが発表され快晴となった97年7月19日(土)、午後1時から育徳コミュニケーションセンター2階研修室において、サロン・あべのの7月の出会いを開催した。7月のパネラーは、フラインプラザ大阪アーチエリークラブ会長の御前敏一みづのりかつ氏であった。テーマは、障害者とスポーツであった。

自己紹介

堺市生まれ。生後10ヶ月でボ

リオにかかり障害をもつ。プロリオ(?!)の障害者を自認。中津の整肢学院、堺養護学校、大阪府立身体障害者福祉センターで、勉強や訓練を行う。YMCAのキャンプ(現在は、肢体不自由児協会が主催)に参加。そのほか障害者運動にも参加。26年前に結婚し、一男一女の子供がいる。結婚後は、家族の生活のために必死で働いてきたため、障害者とのかわりが少なくなっていた。しかし10年前に、ファ

インプラザ大阪が自宅近くにオープンし、スポーツ活動を再開した。

障害者スポーツの歴史

戦前には障害者スポーツはなかった。戦後10年から20年たっても障害者スポーツはなかった。障害者にとってのスポーツは、見学だけだったが、東京オリンピックの後に開催されたパラリンピックを機に、日本の障害者スポーツが始まった。パラリンピックを記念して、全国身体障

害者スポーツ大会が毎年開催されるようになった。また、全国で初めての身体障害者スポーツセンターが大阪の長居に誕生し、以来大阪は日本の障害者スポーツの中心である。

障害者スポーツとして最初に脚光を浴びたのはボウリングであった。当時、一般に大流行しており、パラリンピックの種目でもあった。そして、コロニーと呼ばれる巨大施設や福祉工場から始まったのが、車椅子バスケットである。車椅子バスケットは障害者スポーツの原点であり、バスケットの動き（走りこと）は、後に車椅子マラソンや車椅子テニスにつながっていく。アーチェリーもボウリングと同じく、一般の健常者と同様に競技ができることから、昔から細々ではあるが続いている。しかし、これらは軽度の、しかも上半身の強い障害者向きのスポーツ

であった。そこで最近では、重度障害者のスポーツとして、電動車椅子サッカー、ボッチャ、ホッケー、風船バレーボールなどが誕生してきている。

スポーツを楽しむ権利は、人間として誰にでもある。



ファインプラザ大阪では、障害者のための色々なスポーツ教室を開催しているが、その中で参加が可能だった日曜日のスポーツ教室が、たまたまアーチェリーだった。10年前、第1回の教室終了後にアーチェリークラブが結成され、その代表となっ

た。

一般にアーチェリーと言えば、フィールドアーチェリーに対するターゲットアーチェリーのことである。ボーガンと勘違いしている人も多いが、ウイリアム・テルのりんごくらは、半年も練習すれば当たるようになる。

ただし、動きが少なく、見栄えの良くないのが難点。現在は斜陽のスポーツで、オリンピック種目からも落とされてしまいそのような動きがある。一般の人が撃てるアーチェリー場も、大阪にはなくなってしまった。

30、50、70、90mの距離から各36本の矢を射て、トータルの得点を競う。上半身がしっかりしていれば、誰にでもできる。また、一般の人と同じ条件で競えることから、健常者と障害者が融合できる可能性を秘めたスポーツでもある。視覚障害者を対象に、ブラインドアーチェリー

の試みも2年前から始まっている。できないときめつけず、まずやってみることが大切。

競技人口が少なく、道具が高いものの、精神力を鍛え、集中力を身につけるスポーツである。なぜスポーツをするのか

一般の人がやることは、何でもやってみたい。スポーツをしたいと考えるのも人間としての権利。

スポーツをすることで、障害者を誘い出しやすい。声をかけやすい（遊びの要素がある）。スポーツを通じて、社会に出る訓練にもなる。自信がつく。筋力アップなどの技能の向上は、日常生活にも役立つものである。随時質問を受けていたのだが、最後に参加者全員から、各自が取り組んでいるスポーツやスポーツ観を伺い、サロン・あべのの7月の出会は幕を閉じた。

ある人の言葉で、私の心は深く傷つき、自信を失いかけていた日の午後、ハサロン・あべのV四月の出会い「スポーツ考」にひかれて、泣き腫らした顔をして(すごく恥ずかしかったのですが...)出席しました。パラリンピック・アトラント大会のアーチェリーで、金メダリスト鈴木一二三さんの記事に魅了されました。

子供の頃から体育の時間はいつも見学！そんな私にとって、スポーツはおよそ無縁のものと思っていました。以前に、少しアーチェリーの経験がありました。その頃は今よりも足の調子も良く、立って出来たのですが、矢を取りに歩いて行くのが徐々に辛くなってきて止めました。

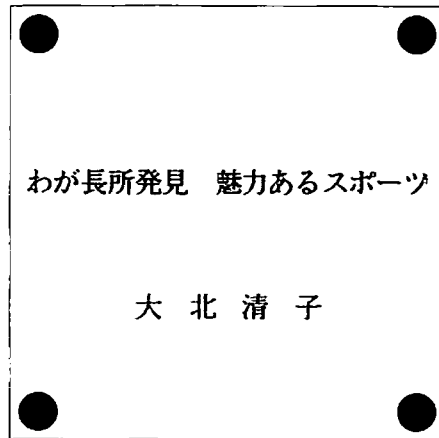
鈴木さんのように私も車椅子でやれば、出来るのではと思い、早速、身障者スポーツセンターへ出かけて行きました。

丁度、六月二日〜七月十四日までアーチェリー教室があるとの事で早々に入部。先生からは、「来年の国体を目指して頑張りなさい」と言っていたきました。

今は、三輪の電動車椅子のまゝで練習をしていますので、場所も取り小回りも利き

ません。スポーツ用の車椅子が手に入ればアーチェリーはもちろんのこと、もっといろいろなスポーツにも挑戦していけるのではと思っています。

もう一つ、チームライフル射撃にも熱中しています。クラブに五月から入っていたが、週一〜二回練習に励んでいます。



チームライフル射撃というのは、10m離れた所からの(1mmの中心点が10点)に向かって射撃します。ルールは、40射30分で最高得点400点。ライフル射撃はオリンピックの種目に入っているそうです。

アーチェリーもチームライフル射撃も健常者と共に戦えるという点で魅力を感じて

います。私は初めての練習の日に三九〇点を出すことが出来、その楽しさにすっかり魅せられました。先輩の方々の良きご指導により、三ヵ月足らずの今、自己ベスト三九九点を出せるようになりました。自分でも、思ってもいなかった集中力があつたことに驚いています。一生忘れられそうにない心の傷も、熱中している間だけでも忘れることが出来、あの日サロンへ行って良かったと思っています。

八月三日には、全日本身障者チームライフル射撃選手権大会リハール大会「ふれ愛びつく大阪」エキシビジョンに出場させていただきます。私にとっては、初めての大会なので緊張の為、高得点は望めないかもしれませんが、私なりに精いっぱい頑張りたいと思っています。

私を応援してくれている家族にも感謝しています。誰にでも一つぐらい、長所があるものですね。私は、この事で心を開いてどんどん、外へ出て行けば道は開けていくような気がします。

さあ！皆様もご一緒に楽しませませんか？

作る つくる 創る

河合恵子

手軽な3Dアートの世界

いま東京で最も人気のある場所の一つはテレビ局が移転したことで、よく知られるお台場。その近くにある東京ビッグサイトという国際展示場で先日ISOT97―第9回国際文具・紙製品・事務機器展が開かれました。コクヨ、パイロット、ぺんてるなど聞き慣れた会社のブースをはじめ、国内外五〇七社が勢揃い。環境にやさしいリサイクル製品に力を注いでいる企業の多いことに目を引かれました。

そしてそれぞれ、自社の主力商品の紹介に力を注いでいるのですが、なかにはちよつと変わった商品もあります。例えば普通、墨で書く文字は消えないのですが、特殊な墨汁で字を書いた上

に別の液を塗るとあら不思議。書いた文字は消えてもとの白い紙に逆戻り。

また、コクヨでは古い時代の帳簿の装飾に用いていたマーブリングの手法を紹介していました。これはふのりを



長ヶ原の白炭

煮たものを広い四角の桶に敷きつめ、そこへ赤・青・黄のポスターカラーを糸のようにそつと垂らしてその表面を櫛でなでつけると波形が表れる。それはまるで孔雀の羽根のような極彩色。

日本でも古来より行なわれてきた墨流しの西洋版です。これを手軽に家庭でも試せるようなマーブリングセットは奈良の墨運堂が開発しています。

もう一つ、面白かったのはレリーフペーパー3Dというもの。これは見たところ普通のパルプの白い紙ですが、水を落とすとそこだけが盛り上がり、水色とすそだけ盛りがあってくるといふ摩訶不思議なもの。彩色は鉛筆でも油彩マーカーでも自由自在。色を塗ったあと、水をつけると立体的な画の出来上がり。あとはカッターで切って断層を表現したりできます。水彩絵の具を使うのは最後。盛り上がったところを元に戻すのはアイロンでOK。でもくれぐれも作品の保存は濡らさないようにご用心。思いも寄らないところが膨らんでしまいます。

これはなぞろー!

その4

いっしょにこー!

阿部幸恵

「人権」について考えているよね?

水戸事件、サングループ事件、福祉就労を盾にした知的障害者の虐待が明るみになりました。

年金、雇用助成金の横領、賃金の不払い、劣悪な職場と生活環境、そして、暴力。サングループ事件では実に五人の死亡者を出しました。これらの事件は、テレビや雑誌のマスコミを通じて、大きく報道されました。

みなさんはこれらの事件を聞いて、どの様に感じているでしょうか。

東京のピープルファースト(知的障害者本人の会)は水戸事件を追いました。

被害にあった人々と交流をはかったり、事件の起こった工場に取材に出かけたり、裁判や支援団体の集会にも参加しました。「社長はひどい!」「かわいそう」「信じられない!」驚きと怒りが、ピープルファーストに起こりました。しかし、熱心に集会等に通っていたメンバーが就職のために、平日動けなくなってしまうことも手伝い、水戸事件から離れてしま

うかたちとなりました。差別から生まれる虐待、不利益を被る

ことは、ピープルファーストのメンバーにとっても身近なものであったはずですが、現に、入所施設で職員から子どものように扱われたり、暴力をふるわれたり、また、就学、就職を拒否された経験をもっているメンバーがいます。しかし、「悪いのは社長、ひどい事件、かわいそうな事件」という域にとどまり、「悪いのは差別・虐待を許している社会であり、自分たちの人権が争われている」ことに、気付いていない感があるのです。

マスコミの取りあげ方も、(大抵いつもそうですが)センセーショナルで虐待の内容のひどさだけが強調され、あたかも「ひどい事件」で終わってしまいそうです。

私たち一人一人には、幸せに生きる権利がある、私たちの認識がそこから始まっているなければ、悪い環境はいつまでもつくられていくでしょう。

当事者はどこにいるの?

そして、事件の被害者はどこにいるのでしょうか。一緒に闘っているのでしょうか?水戸事件に関しては、支援団体に亀裂がはいり、混乱を招いているという話

を聞きます。前に、ピープルファーストも参加して、「知的障害者の虐待を許さない」という横断幕を下げて街を練り歩いたことがあります。その後、参加したあるメンバーが「当事者の姿が見えない。あの横断幕は(当事者にとって)無神経だ」と言っていました。

を聞きます。

裁判や運動の流れは当事者に伝わっているのでしょうか。また、そもそもその流れの中に、当事者の参加があるのでしようか。ともすると、支援者だけの運動になっていないでしょうか。

数年前に東京都の知的障害の入所施設で、戦時体験について聞き取り調査をしたところ、空襲の怖さを話す人が多く、また、戦争中空襲であって、なぜ戦争をしていたか分からない人が多かったとのことです。また、終戦したこと、日本が負けたことを知らなかった人もいたそうです。

まず、知らなければ。一緒に動くために、分かりやすく伝えていこう。

まず、知らなければ。一緒に動くために、分かりやすく伝えていこう。

★強いられた献身

独裁国家は内部からは壊れないという。絶対的な忠誠を誓う人で身边を固め、反对者をことごとく消し去り、教育と宣伝で国民を洗脳したうえで、秘密警察の恐怖でしぼりつける。それくらい徹底すれば、独裁政権は中からは倒れない。国際世論で、どんなに批判されても、どんなに国民生活が困窮しても、独裁国家が自ずから変わるといふことは難しい。それは歴史の教えるところだ。

そういう国が中から変わる契機は、ただ一つ、独裁者の自然死しかない。これは必ず訪れる。多くの独裁者たちが自分専用の軍隊と医療団をもちながら、老いからくる病と死という敵には勝てなかった。抑圧された人びとは独裁者の死を待ち望む。

人が老いて死ぬ運命を悲劇とよぶ人は、過酷な独裁者を忘れていた。もし人が殺されないかぎり永遠に死なないのなら、独裁者は永遠に支配し、人々はその圧政に苦しむ。誰も死から逃れられないこと

は、人の歴史からみれば幸いである。誰も殺されないかぎり死なない社会では、独裁者の権力は極めて強いだろう。



なぜなら、そこでは死は例外的なことになり、人々は死を極度に恐れ、その結果、恐怖政治の効果を最大にするからだ。

私たちは身近な人を次々と亡くしていくことよって、自らの死も受け入れるようになる。家族も友人も安らかに死んでいった、だから私も同じように死ぬことができると思う。死なない社会では、それが無い。

多くの人が憎む独裁者の死を幸いというなら、逆に、聖人として愛されている人の死はどうだろう。そのときにこそ、死は呪われるべきだろうか。

世界の四聖人と呼ばれる人は、いずれも自分自身で書いたものを残さなかった。もしも残していたら、それが絶対のものとなり、あとに続く人々は、それを繰り返して読むだけにとどまっただろう。残さなかったからこそ数千年にもわたって、その意思を受け継ぐため、多くの弟子たちが何度も考え、自由に発展させてきた。もしも聖人たちが、いつまでも死なずに生きていたら、彼らの周囲には自分では何も考えなくなつた人びとが集まるだけで、歴史は変わることがなかったにち

がない。受け入れがたいことだが、彼らの死も、また望ましいものであった。書かれたものさえ失われて良かった。

私たちの大多数が、この極端に憎まれる人々と、あまりにも敬愛される人々の中間にいる。そして、その両極端の人の死が、いずれも人の歴史には幸いであるというのなら、私たち自身の死も、また幸いというべきだ。

誰もが死ななければならぬが、逆にいえば誰でも死ぬことはできる。もしも、永遠に生きていけば、限らない年月の間、過ちを犯し、人々に苦しみを与える独裁者になったかもしれない。また自分では何もできない無力な追従者たちに囲まれる聖人になったかもしれない。私たちのだれもが残忍な独裁者と慈愛にみちた聖人の部分をあわせもつとしたら、死ぬことによって、残していく人々に大きな幸いを与えることになる。それは文字どおりの献身に他ならない。

どんなに利己的な人でも死をさけられないという意味で、献身を強いられる。問われているのは、強いられたものをどう受け入れるかということだ。

(知)

美智子のこんな話

岸田 美智子

「施設問題を考える会」にご参加を！

私達ライフネットワークでは、今年の春頃から「施設問題を考える会」を発足させました。この会は二カ月に一回くらいの割合で、今後第一土曜日の昼間（一時から五時、場所はびあ大阪にて）に開いていこうと思っております。今まで入所施設の問題をこのコーナーで書かせていただきましたが、なかなか実際の解決にはつながっていかない問題がほとんどでした。それに、施設の問題は今までのこの社会の中で遊離されてきたが故に、はつきり人権問題として論じられてこなかったと思います。私達も、外出

ができない、郵便の無断開封、入所障害者のお金の無断使用などの問題をよく聞いたりします。このような問題を大阪府や市に

訴えて監査などを行ってもらったりもしましたが、その場限りで根本的な解決にはならず、その施設の誰がしゃべったかという犯人探しのようになってしまうと、結局その話をしてくれた障害者の方が、違う施設に移されたりすることが多いので、私達は社会的な動きはあまりできませんでした。でも、今後、私達ライフネットワークの活動も自立生活センター建設に向け動きだしていきますし、弁護士や知識人（大学の教授など）をまきこんで、社会的に問題解決に向けて取り組んでいこうとしています。

必要によっては制度を変えたり裁判で訴えていったりすることも必要になってくると思います。このような動きをつくりながら、地域のいろいろな障害者団体とも、施設の問題で共に行動をしていきたいと思っています。

そのような場としてこの「施設問題を考える会」を機能させていきたいと思えますので、施設問題に興味のある方はどんどん参加して下さい。

この会についてのお問い合わせは、左記までお願いします。

○ライフネットワーク（岸田まで）

〒五五八大阪市住吉区大領五一十一十六

TEL 〇六〇七二八二六〇

FAX 〇六〇七二五五〇三

を「オープンデイ」と呼んでお祝をします。この日は興味のある人は私たちの病院を観光することができ、私たちが働くところを公に見せることになります。

あなたの質問について：私はオリンピックには興味はありません。というのはふだんスポーツ観戦することに興味がないからなのです。けれども私自身はいくつか運動をしようと試みています。1週間のうち2、3回は水泳に行き、1週間に1回はサウナに行きます。

あなたのお手紙の最後のところにはちょっと驚きました。ドイツの人の結婚を日本人は

模範とするというところです。日本ではドイツよりも「ホワイトマリッジ」は多いと思います。それは宗教的な習慣ですが宗教の影響はだんだん薄れてきていると思います。したがって多くの若い人々は普通の衣服でそっけない行政上の手続きをし、質素なお祝をするだけなのです。あなたご自身の結婚はどうでしたか。やはり「ホワイトマリッジ」でしたか。

あなたとあなたのお友達が元気でありますようにお祈りしています。

ブリギッテ



サロン隣組ニュース

■「サロン淀川」9月の出会い

日時；平成9年9月21日(日)

午後1:30~4:00

場所；淀川区在宅サビセン「やすらぎ」

[淀川区三国本町2-14-3]

内容；「ポルトガル幻想」

—近くて遠い国、ポルトガルの幻想と歓を—

パネラー；湯浅隆氏

(ポルトガルギター奏者)

会費；なし

問い合わせ先；淀川区社協 サロンティア・ビューロー

TEL 06-394-2900

■「ウイズ東淀川」9月の出会い

日時；平成9年9月13日(土)

午後12時30分(開会式)~

午後5時(フィナーレ)

場所；クレオ大阪北

[大阪市東淀川区東淡路1-4-21,

TEL 06-320-6300]

内容；「ほっこりハート フェスタ」

1時=映画「どんぐりの家」

3時=講演会「牧口一二氏」

ごんべえ「ファッションショー」

盲人会「ピアノ・フルート競」

工房ナザレ「福音劇」

ポレポレバンド

5時=フィナーレ

会費；無料(よしけい館200円暖かいはろく)

*人数に制限があります。参加希望者は必ずご連絡下さい。

TEL・FAX 06-320-4004 宮脇まで

(18:00-22:00迄は開催します)

ドイツからの手紙

Andreasberg, 20th June 1997

Dear Koiko!

Thank you very much for your last letter. I also can't communicate via e-mail, but my boyfriend has an internet-address. I send you our business-card in this letter. If you like, you can also send letters to my second address: Mueoustr. 4 / 38100 Braunschweig.

We came back from America on June 11th after a trip of 3 weeks. Our journey began in Boston, where we rent a car and drove along the east-coast of the USA to Canada. After one week we arrived in Montréal, a great Canadian City, where we stayed for 3 days. Then we drove to the Niagara-Falls and from there to New York, our last city of the journey. From New York we went back to Boston, where our plane started.

Three weeks are only a short time for such a journey in America: we had to decide which of all the attractions we could visit during the 3 weeks. Especially wonderful we find the Niagara-Falls and other National-Parks. But the very great cities (for instance New York) are sometimes oppressing: Thousands of very high skyscrapers, great differences between rich and poor people, always some noise in the streets ... Have you made a journey to America, too? - I send you a photo of New York with myself in front of the "Statue of Liberty".

Now it's difficult for me to find back in the common week-day with my job in the clinic. In these days our clinic will be 100 years old and we will celebrate this with a so-called "Open Day". On this day all interested people can make a sightseeing in our clinic and we will show our working to public.

To your question: I'm not interested in the Olympic Games, because I'm not interested in looking sports generally. But I try to make some sports by myself: 2-3 times a week I go swimming and 1 time a week I go to Sauna.

I was surprised about your last sentences: that marriage in Germany is a pattern for Japanese people. Today I think in Japan more people celebrate a "White Marriage" than in Germany. It isn't very popular, because it's a religious custom and the influence of religions is reduced more and more. Therefore many young people are only married by a poor administrative act in normal clothes and with a small celebration. What's about your own marriage, have you celebrated a "White Marriage"?

I hope you and your friends feel very well. With best wishes

Yours

3rigi He



アンドレアスベルク 97年6月20日

親愛なる慶子さんへ

お手紙ありがとうございました。私は電子メールで情報交換はしておりませんが、私のボーイフレンドはインターネットのアドレスを持っています。私たちのビジネスカードをこの手紙に入れておきます。もしよろしければ私の2番目の住所あてに送って下さってもけっこうですよ。

私たちは3週間のアメリカ旅行を終えて7月11日に帰ってきました。アメリカではまずボストンで車を借りてアメリカ東海岸をカナダに向けて走りました。一週間後にカナダの大きな町モントリオールに着きました。そこで3日間過ごした後、ナイアガラの滝へ車を向けました。そして、そこから旅の最後の町ニューヨークに行きました。ニューヨークからボストンに戻り、そこから飛行機に乗りました。

3週間ではアメリカを旅するのはほんとうに短いものです。特にすばらしかったのはナイアガラの滝や他の国立公園です。しかし、大へん大きな町(たとえばニューヨークのような)は圧迫感を覚えてしまいます。何千という超高層ビル、金持ちと貧乏な人との大きな落差、騒音が通りにあふれて・・・。あなたもアメリカに行かれたことがありますか。

—「自由の女神」の前で撮った写真を同封しますネ。

さて、病院で自分の仕事をする日常生活に戻るのは大へんむずかしいことですね。

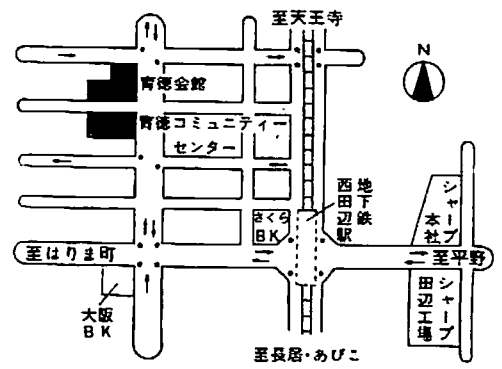
近々私たちの病院は100周年を迎え、その日

お知らせ

<サロン・あべの>9月の出会い

日時 平成9年9月20日(土)
午後1時~4時
場所 育徳コミュニティーセンター2階
研修室(車イストイレ、スロープ有)
[大阪市阿倍野区阪南町5-15-28]
内容 「走ろう歌おう大運動会について」
~障害者と健常者のふれあい~
パネラー 起り駒汰運動後援
中谷政彦氏

会費 なし
お問い合わせ先
TEL 06-691-1028 (富田慶子)



感謝

カンパ、お茶菓子、バザー用品、冊子等
のご寄贈、また、サロングッズのお買い上
げありがとうございました。

- お礼を申し上げます。
赤松菊間、有野、石田花子、伊勢村和子、
稲川絢子、井上憲一、井上百合子、
宇野厚子、大賀由佳、大北清子、
大高澄子、岡本徳俊、加賀谷正、
柿岡 緑、金岡千恵、木寺ちよ子、
蔵田均、小谷由紀子、阪口悦子、

- 皿谷千秋、杉山蔦枝、大丸久美子、
竹村定子、津村和泉、手島八重子、
富田御喜代、中原友喜、永堀厚子、
中村久子、中本光子、長谷川フユエ、
林三起子、原田 仁、表谷恵美子、
藤井さゆり、松本克代、松本聡美、
丸山寿美子、御前敏一、村田能子、
森井美穂、森下公子、山田絹代、
山本篤江、山本敏子、吉原和郎、
和田保子、
その他の方々。

FROM EDITOR

またまた、(は)さんはじめ、みなさまに大へんご迷惑を
おかけいたしました。今年の「さろん亭」では、物品を寄
贈する人、準備をする人、販売をする人、買いに行く人
なれませので、せめて、当日の好天と「さろん亭」の盛況を祈る人に、と。思いが通じた
のか8月3日は快晴・炎天、「さろん亭」は千客万来。お疲れさまでした。(石)

編集人; サロン・あべの運営委員会・<サロン・あべの>Vol.134['97. 8.16.発行] 定価¥100.
代表; 上平幸雄〒545 大阪市阿倍野区阪南町2-19-2-303 電話06-621-4365
連絡先; 富田慶子〒545 大阪市阿倍野区阪南町6-3-26 電話06-691-1028
表題; 井上憲一・筆 文中イラスト; 石田美禰子
郵便振替口座; サロン・あべの 00950-9-26941
印刷; セルフ社〒546 大阪市東住吉区北田辺町4-23-2ミスターDビル2F ☎06-719-8212 ☎06-719-8213

一九九一年九月二日第三種郵便物認可(毎日発行)